Network & Footwork

メディアハウスA&S Vol.23

あけましておめでとうございます

A Happy New Year!

Bonne Année!

私と同世代の女性（団塊世代60才以上）には、アクティブな人が多い。多くは稼ぐための仕事を離れ、ボランティアなどで働く。老親介護の人も上手にチームを組んで、コーデネート役もこなしている。

子どもはすでに社会人として独立し、なかにはパソコンの使い方を習得し、遠隔地から届く孫の写真のお返しに、デジカメで撮影した愛犬の写真をメールに添付して送っているひともいる。ブランド志向ではないが、ファッション・センスがよく、友人と年何回かは温泉巡りをし、カメラや俳句にいそしむ。

ご主人はまだ働いているか、第二の人生を模索中。家事の多くを彼女が仕切っているが、一部をご主人に移管すべく特訓。彼女たちの多くは健康に恵まれ、日常生活の中で新しいことに好奇心旺盛で時間の使い方、お金の使い方がうまい。

日本経済は一部の大企業や金融機関などが「いざなぎ越え」の好調だというが、その恩恵が広くゆきわたってはいるとは思えない。個人消費が伸びず、中小企業では「好景気ってどこのハナシ？」との声も聞く。夫婦で豪華客船「飛鳥」で世界一周というゴージャスなカップルもいるが、アクティブ・シニア女性を見ると、多くは贅沢ではなく派手でもない。しかし、ありあまるお金などなくとも、よく遊びよく学び、よく活動をする結果、堅実に生活をエンジョイしている。

企業を退職したある男性が、大手生命保険会社から「老後の資金は1億円必要」というパンフレットを受け取って、「冗談ではない。老後を脅かす悪質なビジネスだ」と怒っていた。彼の怒りに共感する人は多いはず。老後資金1億円を準備できる人は少数であろう。

アクティブなシニア女性は、社会への貢献ポイントが高い

男性も、アクティブ・シニアの女性を見習い、健康を維持しつつ地道な生活設計をたて、楽しいことや新しいこと体験するためにお金を遣って欲しい。やっと入れた貴重な自由をじっくり味わうため、遊びや学びにお金や時間を遣う人がもっと増えてもいいのではないか。

時間や経済の面でバランスをとれたスタイルの持ち主が増えれば、もっと健全な活気や楽しさを感じられる社会になる。それは大人が元気でやっている社会でもある。 そういう大人が増えるところに、新しい仕事やサービス、社会活動の場も生まれてくることだろう（たかはし）。

「長崎はわしの希望じゃ」

12月の中旬に長崎へ行きました。２日間ほどの滞在で、亀山社中跡、出島、中華街、グラバー園など、初めての地をあわただしく見て廻りました。

最初に向かった坂本龍馬ゆかりの地には、司馬遼太郎文学碑に『竜馬がゆく』の中の『船が長崎の港内に入ったとき、竜馬は胸のおどるような思いをおさえかね、「長崎はわしの希望じゃ」と陸奥陽之助にいった。「やがては日本回天の足場になる」とも言った』という言葉が刻まれていました。

文学碑の建つ山の上から『竜馬がゆく』の中の坂本龍馬と同じ目線で港町を見下ろし、その後、あちこちを歩いて見て、往時の長崎について思いをはせてみました。

日本風でもヨーロッパ風でも中国風でもないことの意味

ちゃんぽん、皿うどん、しっぽく、カステラ、隠れキリシタン、洋館、ランタン（中国提灯）、長崎くんち、唐人町、オランダ坂。これらからしのばれるように、かつての長崎は、海外交流の窓口となり、町中に海外のものがあふれ、外国や外国人を身近に感じることによって独特の開放感と活気をもたらしていた。

わたしが言うまでもないことですが、その影響は、その地に住む人々の暮らしや考え方、気質にまで及び、伝統的な日本風でもなく、ヨーロッパ風でもなく、中国風でもない独特の町の雰囲気を産み出します。

多くの人をひきつけた土地

そして、そうした土地にあこがれた日本各地の人々、少しあげるだけでも高野長英、勝海舟、榎本武揚、司馬江漢、前野良沢、大村益次郎、福沢諭吉、緒方洪庵、福沢諭吉、大隈重信と、実に多くの人たちが、ビジネスチャンスを求め、学問の場を求め、将来の希望を求め、集まり、さまざまな能力を身につけ、得難い体験をし、各地へ散らばり、明治という新しい世界への種を蒔くことになります。

町を歩きながら、「龍馬がゆく」の中の坂本龍馬が見た希望とは、『日本を海外に向かって開き、全国のあちこちに長崎と同じものを数多く作り、貿易や交流によって活気をもたらす新しい世の中の到来』だったのではないか、と思いました。

さらに発想は飛躍し、そこにこそ、私たちがこれからのぼっていくべき坂があるのではないかとの考えが浮かびました。

新しい世界に向かっていくための一歩を踏みす一年に

のぼっていく坂とは、かつての長崎がそうであったように、経済や仕組みにとどまらず、私たちの、ものの考え方も含めて、大きく世界に向かって　　開放し、その結果、もたらされる多様性が活気を産み、世界中から集まった人や精神が、ひとつに溶け合って新しい文化を産み出す社会です。

その社会は、私たちがいま考える伝統的な日本的なものとは少し違うかもしれないけれど、かつての長崎が南蛮風でも、オランダ風でも、中国風でもない、そこにしかない文化を産み出したように、世界中に日本にしかない新しい文化をはぐくんだものであり、そこにこそ、これからの社会や地域、会社や私たちひとりひとりがめざすべき場所と希望を見いだすことができるのではないかと思います。

わたし自身の今年一年は、そうした新しい世界に向かっていく一歩を踏み出す年にしたいと思います（いいだ）。

有限会社メディアハウスエイアンドエス
〒108-0071　東京都港区白金台3丁目16番10-709号
PHONE （03）3449-0785
FAX （03）3449-0736
m-hmail@nifty.com
www.m-h.co.jp